

こだま Q&A



Q50

ノロウイルス検査は保険適応になったそうですが、どういう場合に算定できるのでしょうか。

A50

平成24年4月1日から、保険点数の改定によりノロウイルス抗原定性は、以下のいずれかに該当する患者について、当該ウイルス感染症が疑われる場合に算定できるようになりました。

- 3歳未満の患者
- 65歳以上の患者
- 悪性腫瘍の診断が確定している患者
- 臓器移植後の患者
- 抗悪性腫瘍剤、免疫抑制剤、または免疫抑制効果のある薬剤を投与中の患者

(『検査センターインフォメーション』平成24年3月27日発行 HMA 9より抜粋)

▼ノロウイルス抗原定性

検査方法	容器	所要日数	保険点数	判断料
イムノクロマト法	採便管(ゼリーなし) 〔注1〕	1～2日	150点 〔注2〕	144点(免疫)

〔注1〕ただし、便を採取しにくい方用に専用のスワブをご用意しておりますので、当検査センターまでお気軽にお申しつけください。

〔注2〕上記の場合のみ算定できます。

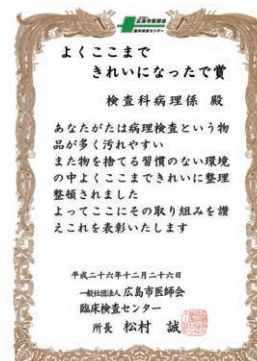
お問合せ：☎代表 0120-14-7191(フリーダイヤル) / 082-247-7191(ダイヤルイン)

きやうちボール

今月号の検査室発記事では、病理標本を作製する上で基本染色となるHE(ヘマトキシリン・エオジン)染色の品質管理についてご紹介しました。工程はシンプルなHE染色ですが、各都道府県の臨床検査技師会では病理検査の精度管理で必ず課題となる染色です。

当検査センターでは、工程の標準化を目指すことで良好な標本に仕上がり、また、正確な診断に結びつくものと考えています。染色だけでなく検査全般においても、P(計画)・D(実行)・C(評価)・A(改善)サイクルを意識して、最終的には患者さまのお役に立てる検査室でありたいと日々努めております。

福原 由美 (検査科病理係係長)



昨年末、5S活動において優秀だったと会長から表彰状をいただきました。

広報委員

谷敷 圭美 / 亀石 猛 / 熊川 良則 / 田中 洋子 / 初岡 博 / 高磨 潤